高3 トップレベル英語 リーディング＜英文解釈編＞

> The future starts today, not tomorrow.
>
> Pope John Paul II
>
> 未来は今日始まる。明日始まるのではない。
>
> ヨハネ・パウロ２世

星の数ほどある塾・予備校・教材の中から，この講義を選んでくれてありがとうございます。
「画面越しの講義」ということに多少の抵抗と不安があるかもしれません。
無機質で淡々とした授業，わかりやすさを強調するあまり緩いテンポの授業，受験生を子ども扱いするかのような綺麗すぎる板書とゆっくりした話し方…
もしかしたらそんな授業を想像するかもしれません。

また，見栄えだけを意識した過剰な効果音と編集，再生回数を上げることに躍起になったタイトルやサムネイル，世間で流行った方法論を安易にコピーする教え方…
もしかしたらそんな動画を想像するかもしれません。

しかしこの授業は，そういった世間の価値観をすべてリセットし，「本当の英語の考え方」と「リアルな授業」を追求し，すべての領域において，プロフェッショナル集団が作り上げてきたものです。

「新しい英語の世界」を知ってください。
「本当の授業」を体感してください。
そして「憧れの大学」に合格してください。

受験勉強というのは，人が一気に成長できる素晴らしい機会です。
英語の文法・数学の公式・理社の知識… 天才たちが血の滲む努力をして手に入れた「世の中の真実」を一気に学べるわけです。
こんな濃密な時間は，一生の中に２度も３度もあるものじゃありません。
合格通知を手にするその日まで，ぜひ受験勉強に燃えてください。

関 正生（せきまさお）

目　次

はじめに　授業の受け方と英語の勉強法
第１講　強調構文
第２講　倒置
第３講　名詞構文
第４講　文型
第５講　接続詞
第６講　因果構文・イコール構文
第７講　構文の演習 - ①（関係詞を中心に）
第８講　構文の演習 - ②（復習＋α）

はじめに　授業の受け方と英語の勉強法

予習～授業～復習について

予習（45 ～ 100 分くらい）

ポイントに目を通し，問題をすべて解いてください。和訳問題が中心となります。和訳は大変ですし，面倒ですが，きっちりと日本語にするよう努力してみてください。文法の問題なら答えを出すことがハッキリしているのでわかりやすいのですが，英文解釈の場合は「どうやって取り組めばいいかわからない」という悩みをよく聞きます。そこで，いくつか注意点をお話しいたします。

① まずは「構文をとる」

英文解釈は「構文を正確にとる」練習ですから，SV や，接続詞･関係詞などをきっちり確認していってください。これが一番大事な作業です。知らない単語が出てきても，今は構文をとることを優先してください。

② 構文の次は「和訳する」

構文の次は「日本語訳」です。「単語をつないだだけ」の訳ではなく，きちんと「構文を意識しながら，その構文を反映した日本語訳」を書いてください。辞書はまだ引かないでください。

③ 何度でも読み直す

次に…　まだ自力で読んでみてください。1 回で理解できるなんてことは稀です。3 回でも 4 回でも読んでください。

④ 知らない単語の「品詞を考える」

ほとんどの受験生が「和訳をしながら辞書を引く」のですが，ボクが考える効率的な勉強法では順番が逆です。構文をとって，その構文を意識しながら和訳していくわけですが，その中で知らない単語が出てきても，和訳を続けてみてください。意味がわからなくても「品詞」ならわかることがよくあります。また，品詞を特定することで，だいたいの意味を「予測」できることもあるからです。

※この「わからない単語の予測」は，昔からよく言われるのですが，単に「予測しよう」と言われるだけでしたよね。みなさんは「品詞を絞ることで予測の精度が上

がる」ということをここで知っておいてください。

⑤ どうしても気になる単語から「辞書を引く」

それでもわからない単語だけを辞書で確認してみてください。それによって他のわからない単語の意味を予測できるかもしれません。

※まちがっても，知らない単語が出てくるたびに辞書を引きながら読んでいく，なんてことはしないように。ものすごく勉強の効率が悪くなります。

英文解釈では，構文を意識することが大事なので，「日本語としての自然さ」は，この段階ではさほどこだわらなくて大丈夫です。

⑥ 和訳の後に「辞書を引く」

品詞を絞って，（場合により）ある程度の意味を予測できたら，知らない単語を辞書で確認してください。予測が当たれば強く記憶に残ります。予測が外れても，それはそれで印象に残るでしょう。

また，すでに品詞を特定しているので，辞書を引いたときにお目当ての品詞のところからすぐに意味を探せるはずです。つまり，調べている単語が「名詞」だとわかれば，辞書でその単語が「動詞」から始まっていても，そこは一気にスルーして，「名詞」のところからチェックすれば OK なのです。

授業（約60分）

●板書なんて写さなくていい

授業の解説を聞いて「理解」することに全神経を注いでください。
今までの授業のクセで「何でも写そうとする」必要はありません。
ボクの授業は徹底的に「理解させる」「その場で覚えさせる」ことを目標にしていますので，理解できたことは書く必要はありませんし，念のためメモするにしても，今までとは比較にならないほどのスピードと鮮明度でメモできるはずです。

●模範の「和訳」も書かない！

とても重要なことですが，「解答例としての和訳を書く」のもやめましょう。絶対にやめましょう。おそらく今まで英語の授業を受けてきて，教師が書く和訳を必ず写してきたと思います。でも，ただ写すだけの行為は無駄でしかありません。

和訳例・模範解答は，テキストの解答部分に書いてあります。ですから，授業中はボクの解説に集中してください。そこで「メモ」をする必要があればしてください。でも，ただ日本語訳を写すのは無意味です。きちんとポイントを理解して，何度も英文を読む…　それを繰り返した後に，「自力で」日本語訳を作ることには大きな意味がありますので，ぜひそういう意味のある勉強をしていってください。
今までの「板書を写す授業・和訳を写す授業」から，「本当に理解する授業」にシフトしてください。受験勉強の効率が格段に向上して，英語力の伸び方が劇的に変わってきますよ。

●ポイントごとに「1分間復習」を

1つのポイントが終わるごとにチャプターを切ってあります。
一気に次のチャプターに行くのではなく（そのヤル気はすごく良いと思いますが），必ずその場で，そこまでの内容を1分復習してください。
集中した1分の復習が驚くほど理解・記憶を鮮明にします。
この「1分間復習」は，今まで25年間ボクの授業で毎回行っていることです。
1時間の授業で，数回は行います。画面越しに強制はできませんが，ぜひやってみてください。頭の中が整理されるので，次のポイントに集中できるメリットもあるんです。

復習（音読 30 回／理想は 50 回）

●英文の復習として効果抜群なのが「音読」

きちんと理解した英文を何度も音読して脳に染み込ませてください。1 つの英文を最低 30 回，できれば 50 回の音読が目標です。

音読はいろんなところで勧められますが，最大の効果はほとんど語られません。実は音読というのは「英語を英語のまま処理できる力」を養う効果があるのです。

1，2 回英文を読んだだけでは，「いちいち日本語に置き換えて理解する」という状態ですが，何度も音読をして英文を脳に染み込ませることで，「（日本語に置き換えずに）英語のまま理解できるようになる」んです。当然，英文を読むスピードが劇的に上がります。

当然，それだけすごいことですから時間はかかります。目安としては，毎日 30 分音読に使ったとして，効果が出るのに 3 ヵ月くらいかかると思ってください。しかしそれだけの時間をかける価値があります。

●音読の「注意点」

⑴ 「大きい声」に意味はない

音読は必ず声に出してください。黙読だと難しい箇所を無意識のうちに飛ばしてしまうからです。でも大声に意味はないので，ボソボソで OK です。ボソボソ音読なら場所をあまり選びませんから，確実に続けることができます（カフェ・電車・バスの中でも隣に人がいなければ OK でしょう）。

⑵ 何を意識するのか？

① 文法・構文を意識して 10 回

まずは構文解析（主語や動詞など）を意識しながら 10 回，じっくりと。この時点では，構文解析として書き込んだカッコやメモを見ながら，ときには日本語訳を確認しながら，ゆっくりで OK です。

② 内容を意識して 10 回

次に英文を読みながら「意味・内容が浮かぶように」10 回音読してください。内容優先ですから，自分で理解できるスピードで OK です。

③ スピードを意識して10回

ここまでにじっくり20回読んでいるので，そろそろスピードを上げることができるはずです。「自分が本番で読むときの理想のスピード」に徐々に近づけながら読んでみてください。

⑶ スケジュール

① 目安は1日30分, 音読に使ってください。3ヶ月くらいで効果が出るはずです。

② 同じ英文を一気に30回も読む必要はありません。1日5回×6日＝合計30回が目安です。

※ちなみに音読用の英文としては，解答の方にテキストと同じ英文を載せておきますので，それを利用してください。講義内の「音読トレーニング」の音声も活用してください。

カッコの使い分け

⑴ 名詞句・名詞節 → <　　　> ※名詞は重要なので，目立つ <　　　> を。

⑵ 形容詞句･形容詞節 → [　　　] ※英語の辞書では, in[on] と書いてあった場合, in=on が成り立ちます。the boy [who is tall] ならば，the boy=who is tall が成立するので，形容詞には [　　] を使っています。

⑶ 副詞句･副詞節 → (　　　) ※副詞は「なくてもかまわない要素」なので, (　　　) を使います。

第１講 強調構文

前提知識

☆今までに習った強調構文についての説明を確認してみてください。誰もが以下のような説明を聞いたことがあると思います（ざっと読み流す程度で OK です）。

【強調構文】

何か特定の語句を強調したいときに，It is ～ that ... の“～”部分に入れたものを強調する形を「強調構文」という。「It is と that で挟んで強調する」ともいう。
※強調できる語句は「名詞」と「副詞」（動詞と形容詞はこの形では使えない）。

一般参考書の記述「強調構文の見抜き方」

① 名詞や副詞を強調するときは，その語句を It is と that で挟む。
② 強調構文の見抜き方は，It is と that を取り払って（その後に必要ならば語順を移動して）完全な文になれば「強調構文」である。

一般参考書の記述「強調構文の作り方」

何か特定の語句を強調したいときは，その語句を **“It is ～ that” で挟み込んで**やればよい（過去形のときは“It was ～ that”の形にもなる）。例えば，

① James bought ② this CD ③ at this store ④ yesterday ⑤ because the tune was nice.

という文で，①～⑤の語句を強調したければ，それぞれを It is ～ that で挟み込めばよい。

① James を強調したい場合
It was James that bought this CD at this store yesterday because the tune was nice.

② this CD を強調したい場合
It was this CD that James bought at this store yesterday because the tune was nice.

☆ この場合 “this CD” を前に引っ張り出して It is ～ that で挟み込む。以下同様の手順でやってみればよい。ここから下の部分は隠して，③ at this store, ④ yesterday, ⑤ because the tune was nice が強調された場合を自力で書いてみること。

③ at this store を強調したい場合
It was at this store that James bought this CD yesterday because the tune was nice.

④ yesterday を強調したい場合
It was yesterday that James bought this CD at this store because the tune was nice.

⑤ because the tune was nice を強調したい場合
It was because the tune was nice that James bought this CD at this store yesterday.

☆以下の識別法は長文でとても役立つものです。ぜひチェックしておきましょう。

【It is ～ that ... の識別（基本）】

① It is 形容詞 that ... → 仮 S・真 S 構文
② It is p.p. that ... → 仮 S・真 S 構文

【It is ～ that ... の識別（応用）】

It is 名詞 that ... → that ... が「完全文」→ 仮 S・真 S 構文
→ that ... が「不完全文」→ 強調構文

ポイント❶ 強調構文の基本

【大前提】 強調構文は【 】を前提に使う !!

(1) 基本形 It is not A but B that ～ .

(2) 頻出形

① not A を強調

It is not A that ～ , but B.

It is not A that ～ . B（肯定文）. ☆ B は「筆者の主張」になる

② but B を強調

... not A（否定文）. It is B that ～ .

It is B that ～ , not A.

【注意】

“It is 形容詞 that ...”“It is p.p. that ...”の場合，「It は仮 S，that ... が真 S」の構文になります。

ですから，“It is not ...”の形でも，その後に形容詞・p.p. がきたときは，強調構文になることは絶対にありません（逆に，「仮 S・真 S 構文だ」と即断できます）。

■ 入試問題演習

⑴ 次の英文を和訳しなさい。

It is not intelligence but hard work that makes a person successful.

⑵ 次の英文の下線部を和訳しなさい。

Turks have used contraception at about the same rate as the Japanese, but their birth rate is twice as high. And so on. It is not AIDS that will slow population growth, except in a few African countries.（中略）All that matters is how often individual men and women decide that they want to reproduce.

NOTE

ポイント❷　強調構文の「即断パターン」（その１）

⑴　対比系　※「頻出形」としてすでに説明済み

①　not A を強調するパターン
It is not A that ～ .「～なのは決して A ではない」
It is not A that ～ , but B.「～なのは決して A ではなく，(実は) B だ」
= It is not A that ～ . B（肯定文）.

②　B を強調するパターン
... not A（否定文）. It is B that ～ .「A ではない。～なのは実は B だ」
It is B that ～ , not A.「～なのは実は B であって，A ではない」

⑵　対比・追加系

It is not only A that ～ .「～なのは実は A だけではない」
It is not only A that ～ , but B.「～なのは実は A だけでなく，B もだ」
It is B as well as A that ～ .「～なのは実は A だけでなく B もだ」

⑶　比較系

It is B rather than A that ～ .「～なのは実は A というよりむしろ B だ」
It is 比較級を含む語句 that ～ .「～なのは実は比較級を含む語句だ」

■ 入試問題演習

⑴　次の英文を和訳しなさい。

It is not so much for the music that I go to concerts, as to enjoy the atmosphere.

ポイント❸ 強調構文の「即断パターン」(その２)

(4) 限定系

It is only B that 〜.「〜なのは実は B だけだ」
It is the very B that 〜.「〜なのはまさに B だ」
It is this B that 〜.「〜なのはまさにこの B だ」
It is the B [...] that 〜.「〜なのは実は…という B だ」

(5) 強調系

It is really B that 〜.「〜なのは本当は B だ」
It is indeed B that 〜.「〜なのは実際は B だ」
It is precisely B that 〜.「〜なのはまさに B だ」
It is mainly B that 〜.「〜なのは主に B だ」

■ 入試問題演習

⑴ 次の英文の下線部を和訳しなさい。

It has been said that Soseki was anti-Western, but I think it is truer to say that he was pro-Japanese in an age when it was fashionable to revere everything foreign. It is the very Japanese quality of his work that has made him a lasting favourite among his countrymen.

ポイント❹ 強調構文のバリエーションなど

(1) 何を強調するのか？

① S を強調　② O を強調　③ 副詞を強調

※要は“名詞”か“副詞”を強調 ＝ 動詞／形容詞／ C になる名詞は強調できない

☆品詞からの即断パターン

It is 代名詞 that ... → 強調構文

It is 副詞 that ... → 強調構文　※副詞には副詞句／副詞節も OK

(2) 強調構文のバリエーション

① It is 人 <u>who</u> ～ .　※ that → who になることもある

② It is 物 <u>which</u> ～ .　※ that → which になることもある

③ It <u>was</u> X that ～ .　※ is → was になることもある

(3) 疑問詞の強調

疑問詞 is it that ～？ 「一体全体 疑問詞 ～」

※間接疑問文の場合は普通の語順（it is）になる ex. I know 疑問詞 it is that ～ .

(4) until を使った構文

It was not until ～ that ... 「～してはじめて…した」

【参考】It was not until ～ that ... ができあがるプロセス

Until five years later I didn’t hear of his marriage.

↓ (Until five years later) を“It was ～ that”で挟む

It was until five years later **that** I didn’t hear of his marriage.

↓ not を前へ

It was not until five years later that I did hear of his marriage.

↓ did ＋ hear ＝ heard なので

It was not until five years later that I heard of his marriage.

「５年後になってはじめて，彼が結婚したことを耳にした」

It is only with the heart that one can see rightly; what is essential is invisible to the eye.

Antoine de Saint-Exupéry

人が正しく物を見ることができるのは，心によってだけである。大切なものは目に見えない。

サンテグジュペリ

■ 入試問題演習

(1) 日本語の意味になるように，[ ] 内の語を並べ替えなさい。
彼女はなぜそんなに魅力的な提案を受け入れなかったのでしょうか。

How [is / that / not / did / she / it] accept such an attractive offer?

(2) 次の文において，話者が**太字**で示した語を特に強調して発音した場合，話者が伝えようとした意図はどれが最も適当か。以下の①～④のうちから一つ選べ。

Max's mother told him to do his **math** homework immediately.

① It is this subject that should be done now.
② It was not his father who urged Max to study.
③ Max tends to leave things until the last moment.
④ Max will not do anything without instructions.

(3) 日本語の意味になるように，[ ] 内の語を並べ替えなさい。
子どもたちが育つ世界は大人が創っている。

[adults / children / create / it is / the world / their / where / who] will grow up.

NOTE

テキスト解答解説

第１講　強調構文　解答

p.5

■ 入試問題演習

(1) 和訳 人が成功するのは，決して知性なのではなく，実は勤勉のおかげなのだ。

英文 It is not intelligence but hard work that makes a person successful.

(2) 和訳 トルコ人は日本人とほぼ同じ割合で避妊法を利用してきたが，彼らの出生率は日本の２倍である。このような例は他にもある。アフリカの数カ国を除き，人口増加が鈍くなるその原因は，（エイズと思われているが）決してエイズではないのである。（中略）大事なこと（要因）は，男も女も各自がどれぐらいの頻度で子どもが欲しいと思うかだけなのである。

英文 Turks have used contraception at about the same rate as the Japanese, but their birth rate is twice as high. And so on. It is not AIDS that will slow population growth, except in a few African countries.（中略）All that matters is how often individual men and women decide that they want to reproduce.

p.8

■ 入試問題演習

(1) 和訳 私がコンサートに行くのは，音楽そのものというよりも，むしろその場の雰囲気を楽しむためなのです。

英文 It is not so much for the music that I go to concerts, as to enjoy the atmosphere.

p.10

■ 入試問題演習

(1) 和訳 漱石は反西洋派だとずっと言われてきたが，私が思うに，彼は外国のものであればなんでも崇拝してしまうのが流行していた時代の中で日本びいきであったと言うほうが正しいであろう。漱石が日本人の間で息の長い人気作家でいるその原因は，（漱石が西洋嫌いであったからではなく）他ならぬまさに漱石の作品

の中にある日本的な性質そのものなのである。

英文 It has been said that Soseki was anti-Western, but I think it is truer to say that he was pro-Japanese in an age when it was fashionable to revere everything foreign. It is the very Japanese quality of his work that has made him a lasting favourite among his countrymen.

語句 pro-「～支持の」（anti- の反対） revere「～を崇拝する」
countryman「同国人」ここでは「日本人」と訳す。

p.13

■ 入試問題演習

(1) How [is it that she did not] accept such an attractive offer?

(2) ①

和訳 マックスの母親は，マックスにすぐに数学の宿題をするように言った。

英文 Max's mother told him to do his math homework immediately.

選択肢の和訳 ① 今すべきなのは，まさにこの教科だ。
② マックスに勉強するよう言ったのは，決して父親ではなかった。
③ マックスはぎりぎりまで物事を先延ばしにする傾向がある。
④ マックスは指示がなければ決して何もしない。

選択肢の英文 ① It is this subject that should be done now.
② It was not his father who urged Max to study.
③ Max tends to leave things until the last moment.
④ Max will not do anything without instructions.

(3) [It is adults who create the world where their children] will grow up.